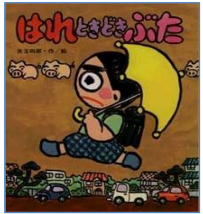
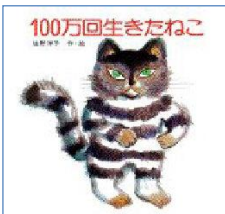



令和7年度子育て支援図書贈呈事業図書カタログ(2学年)

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 	<p>④</p> 	<p>⑤</p> 
<p>19×22cm 79p</p>	<p>25×27cm 31p</p>	<p>26×32cm 32p</p>	<p>20×21cm 40p</p>	<p>29×24cm 30p</p>
<p>則安くんはお母さんを驚かそうとでたらめなことを日記に書きます。あしたは「はれ、ときどきぶたがふるでしょう」「金魚がへやをとびまわる」ところが書いたことが現実となり…。</p>	<p>100万回生まれ変わっては、飼い主のもとで死んでゆく猫。猫自身は死ぬのは平気だったけど、ある時、1匹の白猫に恋をしました。不朽の名作絵本。</p>	<p>いろいろな世界に出没し、「さがせ！」と指示を出すウォーリー。1988年の初登場より30年が経ったこの1作目が新しく生まれ変わりました。みんな一緒に「ウォーリーをさがせ！」</p>	<p>母でいることの幸福、喜び、不安、痛み、そして子どもへの思い。普遍の真実がシンプルな言葉で語りつくされる。母であることのすべてが詰まった、感動で心温まる絵本。</p>	<p>小さな黒いさかなのスイミーは仲間と広い海で暮らしていました。ところがある日、仲間たちが大きな魚にみんな食べられます。一匹だけ残ったスイミーはどうなるのでしょうか。</p>
<p>「はれときどきぶた」 矢玉 四郎 作・絵 岩崎書店</p>	<p>「100万回生きたねこ」 佐野 洋子 作・絵 講談社</p>	<p>「NEWウォーリーをさがせ！」 マーティン・ハンフォード 作・絵 フレーベル館</p>	<p>「ちいさな あなたへ」 アリスン・マギー ぶん ピーター・レイノルズ え 主婦の友社</p>	<p>「スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし」 レオ・レオニ 作 谷川 俊太郎 訳 好学社</p>
<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>

<p>⑥</p> 	<p>⑦</p> 	<p>⑧</p> 	<p>⑨</p> 	<p>⑩</p> 
<p>20×27cm 27p</p>	<p>27×22cm 37p</p>	<p>22×16cm 121p</p>	<p>22×16cm 149p</p>	<p>25×21cm 31p</p>
<p>料理することと食べることが大好きな、のねずみのぐりとぐら。今作は誕生して60年もの時を経て愛される「ぐりとぐら」シリーズ第1作です。ぐりとぐらが何を作るのか楽しみです。</p>	<p>「おかあちゃん、おててがつめたい、おててがちんちんする。」冷たい雪で手が赤くなった子ぎつねのために母さんぎつねがてぶくろを買いたいと考え、こぎつねはひとりで町へ。</p>	<p>年寄りのノラネコからどうぶつ島に囚われているりゅうの子どもの話を聞いたエルマーは助けに行くため冒険の旅へ。50年以上読み継がれている物語です。</p>	<p>王さまのお城で王子さまが生まれました。王さまはお城に国中の人を呼んでお祝いをするといいます。ごちそうはたまごやき。たくさんたまごやきを作るために、王さまはゾウのたまごを持つていと言いますが…。</p>	<p>ある日、キツネは「ともだちや」を始めることを思いつきました。1時間100円でともだちになるのですが…。実はキツネこそが森一番のさびしんぼうだったんです。</p>
<p>「ぐりとぐら」 中川 季枝子 さく 大村 百合子 え 福音館書店</p>	<p>「てぶくろをかいに」 新美 南吉 作 柿本 幸造 絵 講談社</p>	<p>「エルマーのぼうけん」 ルース・スタイルズ・ガネット さく ルース・クリスマン・ガネット え 福音館書店</p>	<p>「ぞうのたまごのたまごやき」 寺村 輝夫 作 和歌山 静子 絵 理論社</p>	<p>「ともだちや」 内田 麟太郎 作 降矢 なな 絵 借成社</p>
<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>	<p>えほん</p>

